

壯丁と衛生 毎年二月より五月迄の間毎月二十日を期し其の年度内の壯丁を町役場に招集して、町醫弓場貫一氏をしてトラホーム、花柳病等の検診をなさしめ其の罹病せる者には治療法を講じつゝあり。其の後に於いては徴兵検査執行後合格者中の入營者のみに對し時々検診を行ひ患者の治療を要するものには治療證を與へて其の途を盡さしめ居れるが、其の成績を徴するに逐年減少の好傾向にあり。又出寄留者には其の他の醫師の検診を受けしめ其の診斷書を送附なさしめ居りて、之れ亦好成績を示す。

海軍志願者獎勵狀況 海軍志願兵の獎勵に就いては時々講演會を開催し、又は夜學會及び青年會集會場所を利用し各區長、在郷軍人分會等へも依頼して極力勧誘に努めつゝあり。最近大正八年度に於いては五名の志願者を出だし其の内二名合格せり。

現役兵慰問方法 各入營者には町長並に分會長より時々見舞狀を送り、尙ほ篠山及び大阪在部隊入營者には町長及び分會長慰問を爲し 更に各兵入營者引卒出張の際は町長及び兵事係等慰問を爲しつゝあり。

大正十年度入營者 總計十四名、内譯左の如し。

篠山歩兵第七十聯隊へ十名、朝鮮平壤守備隊一名、工兵一名、砲兵一名、看護卒一名
徴兵検査成績表

年次	甲種	第一種	第二種	丙種	丁種	戊種	身長平均	體量平均
四年度	七	二	五	八	一	一	五、二六〇	三、五〇〇
五年度	八	二	六	五	七	三	五、二五五	三、七五〇
六年度	二	二	一〇	二	六	一	五、二八七	三、七〇〇
七年度	五	八	七	二	六	一	五、四七	三、八〇〇
八年度	二	三	九	二	三	一	五、三三	三、四〇〇

在郷軍人分會 現在會員約四百五十名を有し左記役員の外に本町を四班に區分し、各班に正副班長を置き、班内諸般の事に當らしむ。各役員熱心に會の發展に盡瘁せる結果現下基金數千圓を有し逐年益々向上して基礎鞏固となるに至れり。就中分會長北村儀三郎氏は帝國在郷軍人會創立前明治三十六年以降已に本町在郷軍人分會長として其の發展に努力し來たり、明治四十二年本會設立以來は池田町分會長として又大正四年以來郡聯合分會副長を兼ね十有八年間、或ひは私財を投じて分會に優勝旗又は進歩旗を寄贈し或ひは奉公袋數百を會員に寄附し或ひは又例は役員慰勞會等に金圓を投じて激勵し、其の他出征軍人の家族に對して經濟上の援助を與へたる等直接間接に分會の進展に資したる功勞最も偉大なるものなり。

會長北村儀三郎、副會長前田金吾、理事野原定次、常務理事青山藤九郎、監事東山萬太郎

評 藤本政治郎、浅井千之助、清水清三郎、高橋新太郎、廣末良太郎、中永利一郎、森國松
員 浅野幸三郎、田中 彦一、谷田 龜吉、豊島 政吉、永口長三郎、矢野新太郎

尚は分會に於ける重なる事業を列記すれば左の如し。

- 一、戰病死者に對しては毎年一回の墓參をなし三箇年目毎に盛大なる招魂祭を執行す。
- 一、戰病死者の遺族にして家計困難なる者には能く實狀調査の上軍事救護法に依る救護の申請を爲さしむる事に努め救護の必要程度に迄立ち至らざる者には分會に於いて適宜の便法を計りつつあり。
- 一、在營者の家族に對しては時々其の狀況を査見し不幸あらば之れを慰め又家族懇談會等の如きを開き其の狀況意見を聴き生計困難の家族には戰病死者遺族と同様の取計ひを爲す。
- 一、軍隊の行軍等ありたる時は湯茶の接待所及び馬匹飲料水の供給所を設け分會長指揮の下に會員出動して其の任に當り又宿泊等の場合には町役場と協力して之れが幹旋に努む。
- 一、三大節、陸海軍記念日等には各會員を分會事務所に集合せしめ勅語捧讀式を行ひ其の他講談を催して其の日を祝福す。
- 一、總會は毎年簡閱點呼の執行當日開會するを例とせり。其の他入退營者は池田停留所迄會長以下各會員送迎し、會員の葬式ある時は各會員會葬す。

第四章 青年會

池田町青年會は大正四年十月、教育勸語及び成申詔書の御趣旨を遵奉し一般青年の智能を啓發し徳性を涵養し身體を鍛練し風俗習慣の改善向上を圖る事を以て目的とし、事務所を町役場内に置き會長に町長を、副會長に小學校長を擁して組織されたるものなり。然れども實質に於いては有名無實にして其の當時一名の會員をも有せざりし事は、本町に於いて最も古き事實上の青年會として自他共に相許せる新町支部が町青年會組織後の八年九月に創立されたる事に依りて明かなり。而して池田町に青年會の組織困難にして發達の遅々たる所以は、其の指導者に宜しきを得ざると一面青年自身の無自覺にも因らなれども、他面住民の移動頻繁にして結束を堅むるに容易あらざる地情民風の關係を其の最大なる因由とすべし。雖然、近時に於いては漸く往時の面目を一新し時代の趨勢と四圍の事情に目醒めたる青年等は、自發的に同志の儕輩を糾合し團體を結束して青年會支部を組織するの氣運生じ、前記新町支部を始め大西町、山口町、東部、林口町、字保等の各支部相亞いで最近創立されるに至れり。今夏日本青年會館建築費寄附の割當額が本町青年會に負擔せられ來たるや、其の負擔方の支出に就いて二三の物議あり遂に青年會實質論迄惹起するに至りたれども、結局各支部協力し教育活動寫眞會を開催し



池田青年會新町支部員

て其の収益金を寄附し負擔の責を果たしたるが、偶々此の事は各支部聯繫統整の機會を作りたるものにして町理事者亦各支部を統率して健全なる町青年會興起の意圖あり、近き將來に於いて其の實現を見るも難からずとすべし。尙ほ小學校内に青年夜學會を開き毎週月水、金の三曜日實業上の補習教育を施しつつありと見え居るも、之れとて青年會員の實狀前述の如くなれば一時的のものたるに過ぎず其の效果の程度たるや全く未知數に属せりと云ふも過言にあらざるなり。今重なる一二支部の現狀を摘記すべし。

新町支部 大正八年九月十日の創立に係り現在團員數三十六名、支部長に前田金吾氏を推し事務所を元新町に置く。町青年會支部中最も古き經歷と實力を有し團員の訓練、修養共に理想に近きを以て稱せられ、町青年會を代表する一權威者たるを失はず。教育部、運動部、新町文庫、音樂部等の諸設備あり。定例集會、

講演會、珠算練習會、社會見學等を時々開催して智徳の練磨に資し、月刊雜誌『アカツキ』週刊新聞『新町青年』共に謄寫版刷を發行して會員の智見を廣め、角力、擊劍登山會を舉行して體育の養成に努める等常に幾多の事業と目的の爲めに勵精を怠らず。



東支支部長 梶田治三郎氏

東支支部 本年七月九日の創立にして現在團員十五名、梶田治三郎氏を會長とし。新田源治氏が會計兼理事、藤本永一氏が副會長。木南健次郎、森田義二兩氏を理事、後藤寛氏を會計とす。毎月五日、二十日の兩夜定期集會を開き會員相互の意見の交換、修養談等を爲して智徳の琢磨に資す。最近社會見學、講演會、會報『若き泉』を發行して相互の親睦を計れり。機會ある毎に團員の物品行商隊を編成し街頭に露店を開きて物品を鬻ぎ以て基本金の蓄積に努力して他日有事の際に備え置ける事は既に世人の周知賞讃措かざる所、蓋し新町支部に次ぐ有力の團體とすべし。

練武班 練武班は大正四年六月今上陛下御即位紀念事業として町教育會主催の下に組織されたるものにして、規律節制を恪守し協同の德義を重んじ體力を練り氣節を尚び怯懦退嬰の氣風を排する事を以て其の綱領となし班長に西田町長を、副班長に北村分會長を推戴す。創立當時は本町北村吉右衛門氏所有元満願寺屋酒倉の一部を其の道場に充て専ら士氣の振肅と體育の練磨



池田武生中學校副校長西村氏と教師山崎氏親

に努めつゝありしが、七年室町の有志富士田九平氏が其の所有建物家屋の無償提供ありしより同班を室町に移し、其の後九年七月更めて同氏より該建物全部の寄附ありしを以て同建物を町役場裏に移し班を同所に置き今日に及ぶ。班生には少年を以しみたし毎週火、木士の三曜日に例會を開き聲剣、柔道、相撲等の練習を爲し併せて精神修養に資する爲め講話會を催す。兎角萎靡振はざる青年會の傍體として此の種團體中に重きを爲し、班生の意氣盛にして成績大に見るべきものあり、既に盛大なる修業式を行ひて練習生中の修業者數十名を出だせり。

第五章 農 事

往昔農村の状態 我が池田町が遠く農村として存在せる頃は如何なる状態にありしや、素より記録の徴す

べきものなきを以て詳細に知る能はざるが、前年町有志の壯舉により耕地整理工事施行の際耕地の土質に據り多少其の當時の農耕状態及び耕地の範圍、擴張の趨勢等を推窺するに難からざりしものありきと云へり。今當時工事の實際に當り農事の造詣淺からざる耕地整理組合員福原喜三郎氏の所言を藉りて、在りし往昔の状態を偲ぶ參考の一端に供せんか。乃ち字岸添以南、宇保に至る高岸以東は定積土壤にして表土は深く地盤は固なり。故に比較的耕地として夙く農耕せられたる如く見ゆるのみならず、其の用水の如きは山岳の滲透水を以て灌漑用と爲し之れを引用し居たるものゝ如きも、如何せん西南に貫流せる猪名川の巨川あり其の蒙る水害の爲め遂に横岡池及び辻ヶ池、光明寺池等の溜池を設けて直接流水の使用を廢せし事ならんを推察するに難からず。されば此の地勢の關係上當時農耕の住民は宇保方面に蟬集し其の居宅を構え居たるが如し。現に地盤掘整工事の際往々石地蔵或ひは同破片等の發掘されたるも同方面に多かりしを以て知るべし。此の意味に於いて池田町抑々の發生地は宇保に有りと看るべきか。それより西に方向すれば土壤も運積土と化し表土も淺く字中川原、西川原に至りては地層全く砂礫のみにして、耕地となりたる時代も餘り古き事にあらざりし事を思はしむ。斯くの如く池田上古の農村は比較的地味豐饒なる耕地を有し前途有望の命運なきにあらざりしかども、其の後文物の開化はやく封建時代に至りては池田地方は天領地なりしより、農民より徴せし年貢米を池田商人に委託販賣せしめたるを以て之を酒造米として消化するに至り、茲に酒造業の發達を益

益助長せしむると共に池田商部の進展は逐年隆昌を加へ、一方之れが爲めに農村は壓倒的影響を受けて鋤鋤を捨て、算盤を把る者輩出し、遂に近世農戸衰微して商賈榮ゆるの狀態を呈するに至れるものならんか。此の所説は確かに一家言の價值なきにあらず、蓋し池田市街の起原及び酒造業發達の徑路とを參照して興味ある一事とすべし。

農村の現状及將來 現在池田町には約八十餘町歩の水田と五十餘町歩の畑あり。農會令の發布と同時に田地八十町餘の所有者及び耕作人を以て町農會を組織して農事の改良を企圖し利得増進の指導獎勵方法を講じ、特に稻作の如き姑息的傳襲の久しき關係上舊來の陋習を墨守して容易に更改せられざるを岡本農會長の熱心なる盡力により、近時稍舊來の面目を一新し品種統一と病害蟲の豫防を完全に勵行して得る處少なしとせず。一方我が耕地の形狀は亂雜にして高底一様ならず、隨つて不耗の地積も尠なからざると就耕力の不經濟なるものありしが、之れを根本的に矯革すべく發起されしが即ち彼の耕地整理の事業にして、時の町長林田松三郎氏及び農會長其の他の有志が戮力し耕整事業の有利なる事を地主に圖りて組合組織となり、約四萬圓の工事費を投じて多大の勞力と日月を要し漸く完了したるは大正七年の頃なりき。時恰も歐州戰亂の爲め我が國財界の好況に伴ひ郡部を擧げて浮動輕佻の氣運磅礴たるあり、農家の徒弟之れに驅られて其の業を専らとせず或ひは之れを捨て或ひは轉業するもの日に増加し、滔々歸する處を知らずして遂に農田も荒廢に委せられんとするの狀態に至れり。而も此の趨勢と順

應的に都人士の此の地に移住し來たるもの漸増し住宅の新築市街地の擴張等に依りて我が美田良圃も證券化し移動賣買の旺なるあり、爲めに益々田圃の縮少、就耕の嫌忌を助長して農村の衰退著しく、曾て耕整事業の完成によりて期待せられたる農作増収の企計も今や徒爾に終らんとする觀を呈せりされば之等の情勢より將來を洞觀する時んば住宅地の擴張によりて農耕の田畑は益々蠶食されるに至るべく、又町發展の根是よりするも其は到底免るべからざる自然の數なるべし。故を以て近時農業當事者は米麥の如き耕作より轉じて、果實蔬菜の栽培に天與の沃土を利用せんとするの傾向顯著たるものあり。

自作農及小作農調 (大正九年末現在)

	戸數		耕作反別	
	自作	小作	自作兼小作	計
自作	一八	二八	二〇	二四
小作	二六	二〇	一三〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇

第六章 衛生

衛生組合 池田町衛生組合は各字區長を以て組織し常に衛生狀態に付各種の注意を拂ひつゝ、毎年七月盛夏の候に於いて通常に清潔法を施行し其の際は町役場吏員と共同協力して之

會席御料理
仕出し

池田本町

生魚商

尼安兄弟商會

店主

黑臺源次郎

電話百拾貳番

御婚禮料理
宴會用折詰
精進料理

大勉強御用命に應ず

兵庫縣川邊郡川西村

大阪織物株式會社

猪名川分工場

電話池田百二十一番

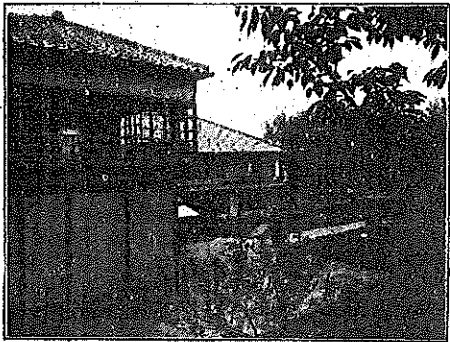
れが勵行に従事し居れり。而して其の經費は町衛生支會と共同の負擔なるが、衛生支會の事業及び一箇年の經費は百七十八圓なり。

衛生支會 衛生支會は町衛生組合と共同の事に當り流行病豫防の爲め衛生講話會を開催し、又痘瘡及び虎列拉病の府下に流行の兆ある時に際してはワクチン豫防注射を町民一般に施行する事に努力しつゝあり。此の經費は一箇年八百七十圓を計上す。

傳染病發生數 池田に於ける公衆衛生諸般の設備は決して完全なりと云ふ能はざるも尙は空氣の清澄、飲料水の好適せる等の關係により比較的傳染病患者の發生少なきが如し。今參考上池田警察署管内に於ける傳染病發生數を掲出すれば左の如し。

年九	度	コレラ	赤痢	腸チブス	總數	死亡	治療	年十	度	コレラ	赤痢	腸チブス	總數	死亡	治療
九	度	二	三	二	二	一	一	十	度	二	三	二	二	一	一
度	年	二	三	二	二	一	一	年	度	二	三	二	二	一	一
腸	チ	二	三	二	二	一	一	腸	チ	二	三	二	二	一	一
チ	ブ	二	三	二	二	一	一	ブ	ス	二	三	二	二	一	一
ブ	ス	二	三	二	二	一	一	ス	八	二	三	二	二	一	一

警察取締營業者 尙は參考として池田警察署管内に於ける警察取締營業者中衛生管轄に屬する分を左記に掲ぐべし。池田署管内には池田町を始め六箇村を包含し居り随つて左記營業者も七箇町村に散在し居れるも其の大部分は池田町内に在るものと見て差支えなし。(大正九年調) 醫師二〇、齒科醫、産婆九、看護婦二二、鍼術一三、灸術一一、按摩術四〇、藥劑師三、藥種業一六、製藥業一、毒劇物



部一ノ室病及室樂娛院分田池院病生回

營業一六、賣藥營業一七、同銷賣營業三六、同行商三、私立病院二、分院一、隔離病舎七、獸肉販賣業三〇、牛乳採取業三、牛乳販賣業六、氷雪貯藏業五、同卸賣人五、理髮業男三三、同女四九、屠場業五五、食鹽具商二、**病院及醫院** 池田町の隔離病舎は町の東郊秦野村大字尊鉢と隣接して建設され亞鉛葺きの平家建なり。又現在町内に於ける病院及び醫院の所在地は左の如し。本町池田醫院以下は齒科醫なり

上池町 回生病院。 荒木町 増本病院。北新町 博愛病院。本町 瀬戸醫院。本町 奥山醫院

元新町 福田醫院。元新町 小石醫院。小阪前 鈴木醫院
柳屋町 淡河醫院。西之口 岩西醫院。室町 森醫院
室町 八隅醫院。本町 池田醫院。本町 尙齒醫院
本町 原口醫院。中之町 中尾醫院。宮之下 攝池醫院
田中町 大正醫院。室町 河野醫院。林口町 松木醫院
尙は重なる病院及び醫院の内容を記せば左の如し。

大阪回生病院池田分院 大阪回生病院は大阪に於ける私立病院の白眉にして、盛大なる事關西第一を以て鳴り、池田分院は其の支院にして池田町に於ける全科の完全なる病院として世既に定評あり。大阪回生病院は都市の病院として貴賤の各階級を通じて治療の目的を達すべく地を堂島の一角に卜し大阪控訴院と對峙して大層高樓を構へ大小二百以上の病室を設け各専門の

●メリヤス雜貨、帽子洋傘裁縫附屬品卸小賣



助之己銀新主店ヤッコシハ

日の本足袋代理店

池田南新町

ヘンコツヤ本店

池田西之口町(百貨店内)

ヘンコツヤ支店

主任 新銀徳一

〔特色〕 良品低廉、ネギル人にはうりません



西洋御料理
並ニ麵類商

池田仲之町

カフェー

ライオン

井上作藏

電話池田二三四番

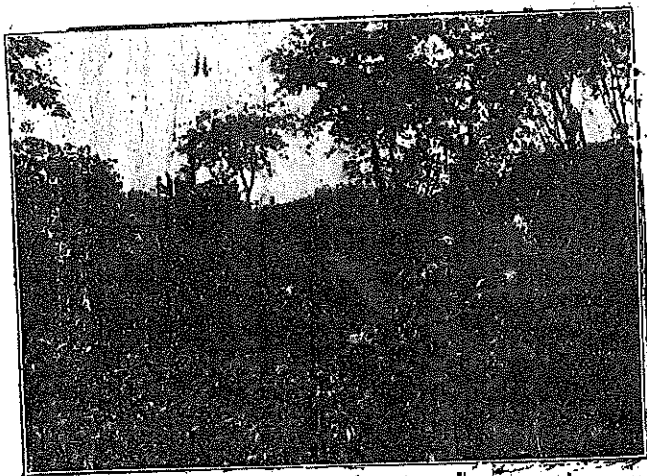
御注文の際は電話にて御一報
次第遠近に拘はらず迅速に配
達仕り候



大阪回生病院本館

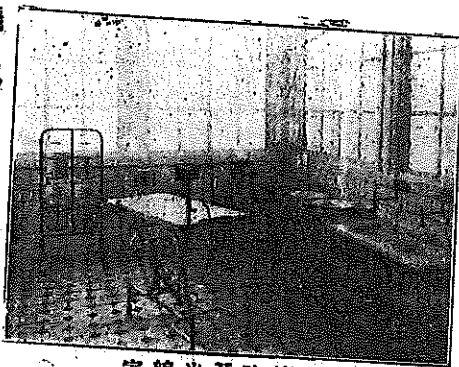
博士分増して得意の醫術を司る斯業界の重鎮として名ある宜なり。池田分院は主として浪北の天地に僻在せる患者を收容するものにして游資を以て入院せしむるの道を講じ居れば低廉なる費用にて十分なる治術を受くるの便宜あり。又一面都人士が病後轉地療養の樂天地ならん事を期し設備の萬般完整を盡せり。故に皐月山の南麓上池田の高地に據り廣袤の地面に病室を分設し建築に意を注ぎ特に通氣採光をよくし冬日は暖を探るに宜しく夏季涼を納るゝに適す庭園廣く樹林あり竹叢あり四季の草木を其の間に培養す眺望絶佳にして近くは攝河泉の平野と峰巒を左右に控へ遠くは茅渚の海を隔て、紀伊淡路を雲霧の間に髣髴として望見し得べし。紅紫爛漫たる樂園を逍遙しつゝ絶佳の風光を觀望すれば其の快感言ふべからず一良此の境に入る所謂空氣療法に依り自然の療能を以て心身の疲勞を癒し健康を回復する事難か

らざるを知るべし。尙ほ近時土地の發展に伴ふ住宅の激増により適當の醫院なく居住者の不便なるを察し昨年來阪急電鐵沿線豊中停留所前に診療所を設置し内外科共熱達せる學士をして特に診療の任に當らしめつゝあり。而して池田分院と大阪回生病院とは本支の連絡あり、機に臨み變に應じ緩急相呼應して直ちに専門の博士をして適宜の治術を施さしむるを以て患者の利福多き事たるや贅言する迄もなし。回生病院は斯道の老大家として信望敦厚なる院王菊池篤忠氏の統督に係り分院長としては醫道の奧義を究め治術に造詣深き谷軍治郎氏専ら經營と治療の衝に當り六七の學士常に在院して其の指導の下に活躍す故を以つて多數の患者は信頼して日々踵を接して來たり治療を受けつゝあり。大阪本院は創立以來二十有餘年池田分院は開設以來十一年の歲月を経て逐年共に設備完成して益々隆盛の域に達す。是れ時勢の



池田分院庭園

要求に依れる自然の發達を遂げたるや論を俟たずとも一面また同院が院是とする一視同仁の主旨に基き院内一同博愛の精神を以て人道の爲めに盡したるの效果も主因とすべし。



増本病院X光線室

増本病院 産科婦人科増本病院は阪急電鐵池田停留所東二丁の地點に在り、社團法人組織にして理事長は北村儀三郎氏、院主は増本眞次郎氏、本年九月一日の開院なり。總坪數二千三百餘坪、建坪五百餘坪にして土地の高燥と空氣の清澄及び風景明媚を以て稱せられ、病室三十七室(收容人員四十三名)中特等甲三室、同乙四室、一等甲三室、同乙十室(以上副室付)二等甲五室、同乙七室、三等三室あり。病室は全部庭園付にして患者の安靜と静養の絶對効果を期せんが爲め悉く家庭的を本旨とし床を配して通風、採光等に意を用ゆ其の他院内の設備としては前記註目の外にX光線科、ラジウム科、手術室等を完備し病舎に配するに浴場、賣店等を以てし水湯の供給は總て動力用の揚水機を以てす。庭園には天然の地形を利用して約百坪の噴水を設へ植樹布石に細心の意を拂ひ患者の逍遙散策に便す。院長醫學士増本誠一郎氏は大阪醫科大學産科婦人科に十餘年間在職して斯道の蘊奥を究めたる新進の刀圭家であり、副院長醫學士栗栖弘二氏は大阪醫科大學出身、同

じ副院長熊本醫學士安成朝光氏は緒方病院に數年間勤務し、俱に該博なる國手を以て稱せらる尙ほ同院では目下増築の計畫あり、更に近く産婆養成の機關を設置すべく着々準備中にして、蓋し攝北杏林界に於いて回生病院池田分院を凌ぐの大權威たるを失はす。

博愛病院 皐月山の中腹老松古杉の蒼鬱として天を掩ふ一仙寰あり、裡に巍然として聳ゆる一高厦こそ即ち博愛病院なり。内科外科を専門とし、敷地二百八坪建坪八十二坪、病室十數室あり。巧みに自然の景勝を利用し土地高燥、空氣清澄、眺望の佳絶なる事は池田隨一を以て稱せられ陽光麗かなる一日病室の障扉を配して俯瞰すれば豊川兩郡の翠巒十里脚下に湧き遠く茅海の浦曲を望む。庭園綠樹の間に一亭あり、逍遙して輕疲を慰すに身全く羽化登仙の思ひありて必身清淨極みなし。蓋し病院として自然的恩恵を最も多く被浴せるもの本院を以て最大とすべし。



瀨戸三郎氏

し。明治三十九年の開業にして院長弓場貫一氏は大阪高等醫學校出身の醫學得業士、外科を専攻して造詣頗る深く手術に對して用意の周到なる事は他人の追隨を許さず既に斯界に定評あり。(尙ほ町會議員月旦の部を参照すべし)。醫員に鬼追幾治郎、原亮兩氏あり、孰れも多年本院に在職し該博なる妙手を以て噴々たる信望あり。

瀨戸醫院 院長瀨戸卯三郎氏は福井縣の産、金澤醫專の出身にして卒業後同校にて病理解剖學を専攻せり。後福井縣三國病院、山口縣立病院に歷職し轉じて明